

概要

背景と目的：2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北および関東の太平洋沿岸地域、特に岩手・宮城および福島に大きな被害をもたらした。この震災が被災地の人々に与えた心身的な影響については、東北大学をはじめとした各機関の調査研究などにより明らかにされている。本報では、全国21,500人の医師から得られた388疾患に関する調査データを元に震災前後および被災地とその他地域との比較を行い、この震災の与えた影響を統計的に把握することを目的とした。

結論：被災3県（岩手、宮城、福島）における震災前の2010年6月と震災後の2011年6月の比較では、心房細動（AF）、小児気管支喘息、不安障害において有意な増加が見られた。加えて、震災後の精神疾患の患者割合について被災3県とその他地域を比較したところ、被災3県のPTSDの割合は他の地域の割合を有意に上回っていた。

調査手法

本分析は、エムスリー株式会社と株式会社社会情報サービスにより共同制作された、医師対象調査データPatientsMapをもとに行った（サンプルサイズは2万人以上、380以上の疾患の患者数などについて質問）。本分析では、2010年と2011年の比較、また2011年6月データについて、岩手、宮城、福島3県とその他の都道府県との比較を行った。



被災地域
特に被害の大きい岩手、宮城、福島3県（本震災による死者の99%がこれらの地域で占められている）

PatientsMap 日本版の概要と本分析の条件:

- **2010年データ:** 6月実施 n=20,729
- **2011年データ:** 6-7月実施 n=21,588
- 全国の病院および診療所勤務医師対象

本分析では、1か月あたりの平均患者数が2名以上の疾患を対象とした。



PatientsMapは、社会情報サービスとエムスリー共同開発の、ウェブ調査による診療患者数、メーカーの訪問有無などを把握したデータベース。日米で実施、380以上の疾患をカバー。

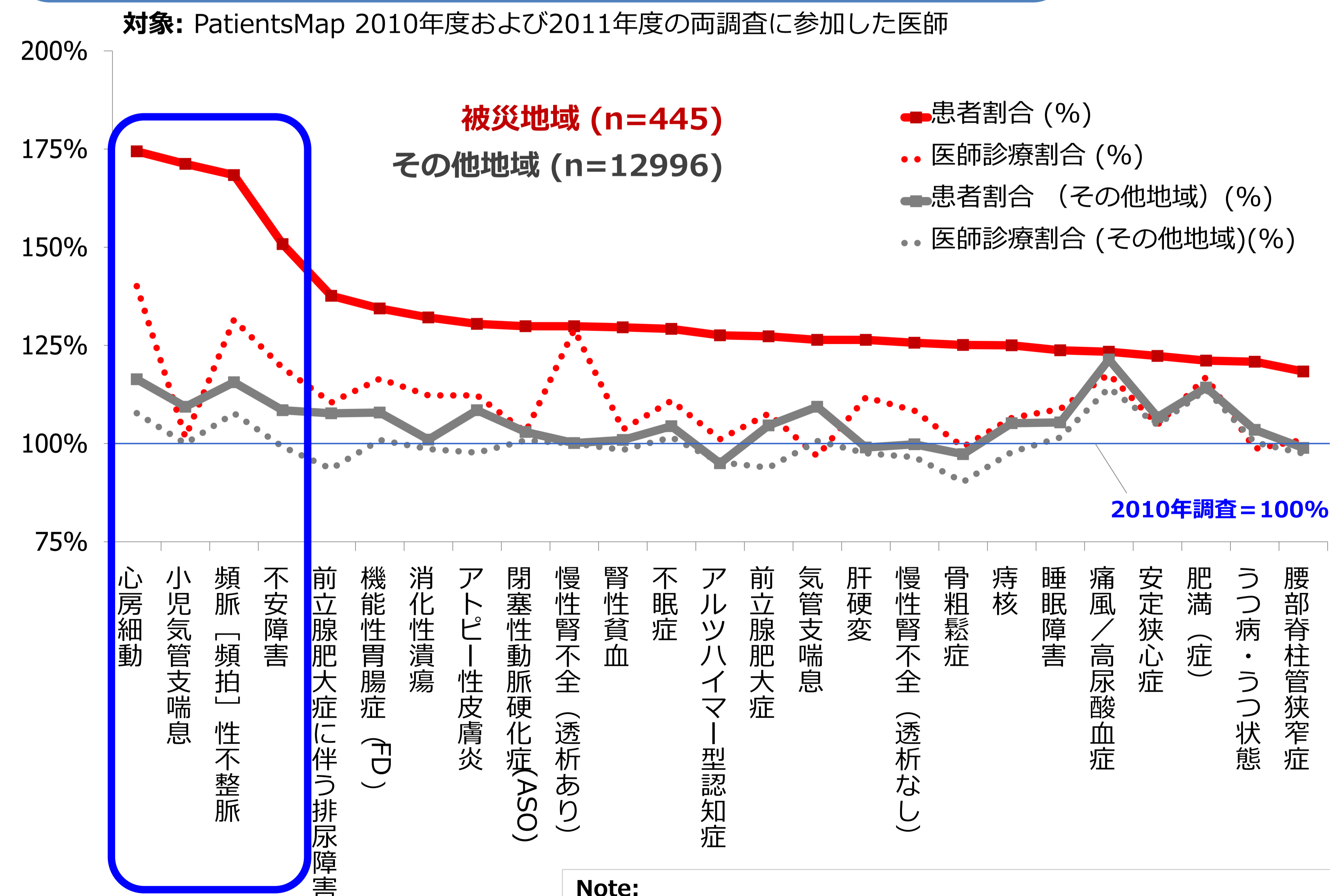
心房細動・喘息・不安障害が有意に増加

分析1：被災地とその他の地域について、震災前と震災後の疾患診療状況の違いを比較するにあたり、以下のような指標を設定した。

- 1) 全受診患者のうち、各疾患患者割合
- 2) 全医師のうち、各疾患の診療を行っている医師の割合

結論：上記指標をもとに震災前（2010年6月）と震災後（2011年6-7月）を比較した結果、**心房細動（AF）、小児喘息、不安症候群**に統計的有意な増加が見られた。

2010年度割合を100%とした時の2011年度割合



Note:
• 統計的有意差の検定は患者実数または患者割合で行われています。

被災地域でPTSDの割合が高い

分析2：震災後に実施した全国調査データを使用し、**精神科疾患**について被災地域とその他の地域との比較を行った。分析に当たっては、その他の地域での精神科疾患の患者割合を100%とした場合の、被災3県での比率を算出して比較した。

結論：その他地域と比較して、被災地域では心的外傷後ストレス症候群(PTSD)の患者割合が有意に高いという結果が得られた。

被災地における精神科疾患の割合

